

# れんがいNEWS

Vol.23

発行日：2024年4月



## 北海道医療センター 院長就任のご挨拶

北海道医療センター院長 伊東 学

令和6年4月より、長尾雅悦先生の後任として病院長に就任いたしました。

私は、平成26年4月より当院の整形外科に勤務し、ちょうど10年が経過しました。脊椎脊髄外科領域が専門で、種々の難治性脊椎疾患、小児期から成人期までの脊柱変形、脊椎・脊髄外傷などを中心に医療に携わって参りました。連携医療機関の皆様には、平素より多くのご支援、ご協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

当院は、開院当初からブランドプロミスとして「まいにちから、まんいちまで」、「実現します。断らない医療」を謳い、地域の医療を支える基幹病院としての役割を十分に発揮できるよう、職員一同、日々努力を重ねてまいりました。令和6年度の病院スローガンには、「職員が輝き地域から頼られる医療の実践」を掲げさせていただきました。人口の高齢化が急速に進み、多くの基礎疾患を持たれる市民の方々の健康を支えるためには、今まで発展を遂げた個々の専門医療の展開のみでは不十分であり、それらを統合した集学的医療が益々重要になります。当院の診療部門には経験豊かな医療スタッフがたくさん育っており、個々の職員の技術や経験が十分に発揮できるチームワークが構築できれば、これまで以上に地域の皆様から信頼される医療機関になると思います。職員一人一人の潜在能力を伸ばし、その力を結集し、地域の皆さまの医療ニーズに迅速に応えられるよう職員一同頑張っております。引き続き暖かいご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

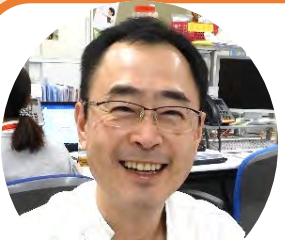


## 北海道医療センター 副院長就任のご挨拶 北海道医療センター副院長 七戸 康夫

令和6年4月より副院長を拝命いたしました七戸康夫と申します。

私は11歳まで山の手で育ち宮の森小学校に通いました。桐生商店（現在のラッキー山の手店）に買い物に行き、坂ビスケットの「しおA字フライビスケット」が大好きなおやつでした。当院はその時代から国立札幌療養所としてこの地にありましたが、医師として戻ってくるとは夢にも思いませんでした。大学卒業後に麻酔科を入り口として救急集中治療医学に従事して参りましたが、道外で勤務していたある日、北海道新聞Web版に「西札幌病院と札幌南病院が統合、国立札幌病院から救命救急センターが移転して新病院に」という記事を見つけました。医師はどんなことで自分のキャリアに満足感を得られるのでしょうか。手掛けた手術症例数や学位、専門医と言った称号かもしれませんが。しかし救急医にとっての仕事のアウトカムは「自分の暮らす街をどれだけ安心安全で良い街にするか」です。山の手に救命救急センターが出来る。自分が育った街で救急医としての最後のキャリアを全うして恩返しをしたい、そう思い2010年3月、開院と同時に赴任いたしました。この地は自分のルーツの街です。当院にも札幌西高校OBOGや実家住所が山の手研修医がいます。彼ら彼女らが30年後、私と同じ思いを抱いてここに帰って来てくれることを願い、日々診療・教育に励んでおります。これからも住民のみなさま、連携医療機関のみなさまの助けを借りて、この街を安心安全な街にする仕事をつなげていく所存でございます。

今後ともよろしく願い申し上げます。



## 北海道医療センター 副院長就任のご挨拶 北海道医療センター副院長 川村 秀樹

地域医療機関の皆様には日ごろから大変お世話になり感謝いたします。

この度、令和6年4月1日付で副院長を拝命いたしました。5年半前に北海道医療センターに赴任して以来、外科医個人としては胃がん手術のスペシャリストとして、また外科部長として外科を統括し地域の皆様のご期待に応えられるよう努めてまいりました。また病院の役職としては地域連携室長として地域の皆様と顔の見える活動を展開し、医療安全管理室長として院内の安全管理を統括し、クオリティマネジメント室長として診療のみならず経営的な面での質の改善にも取り組んでまいりました。そのほかにかん相談室長、手術室部長、外科系診療部長、統括診療部長といった要職を歴任させていただき、さまざまな経験を積ませていただきました。それらから学んだことを生かして副院長の職責を全う出来るよう努力いたします。地域医療機関の皆様から、より安心して選んでいただける病院となるよう、地域医療連携室と協力しながら取り組んでまいりたいと思います。

## 北海道医療センター地域医療連携室長就任のご挨拶

地域医療連携室室長 新野 正明



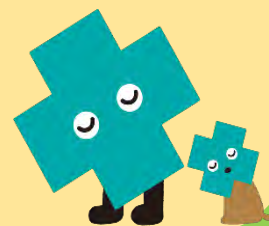
令和6年4月1日より、地域医療連携室長を拝命しました。

その就任にあたり、一言ご挨拶させていただきます。私は、脳神経内科疾患、特に神経免疫疾患や認知症などを専門としており、それらの疾患でこれまで近隣の医療機関と連携させていただきましたが、今後は北海道医療センター全体として、医療機関だけではなく介護施設などを含め総合的に地域の皆様とのつながりを深めていけるよう活動して参ります。COVID-19パンデミックは人と人とのつながりを寸断し、医療体制にも大きな影響を及ぼしました。一方、コロナ禍を通じてITを活用した医療の重要性が認識され、今後ますます診療に取り入れられていくのではないかと思います。そうした中でも、ITだけでは解決しない課題も多く存在し、特に「医療」においては、人と人とのつながりがパンデミック以前にも増して重要になってくるのではないかと考えています。そうした意味で、お互いに顔の見える関係は非常に大切で、地域の皆様とともに「顔の見える関係」を構築していきたいと考えています。それこそが、地域で求められ、いざというときに強みを発揮する「医療」につながるのではないかと思います。いろいろな場面で、「連携」ができるよう努力して参りますので、引き続き当院をご活用いただければ幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 令和6年度 連携登録医大会 開催日決定!!

日時：令和6年6月13日（木曜日）  
第一部：18：30～講演会  
第二部：19：00～懇親会

詳細決まりましたらおしらせいたします。  
皆様、万障繰り合わせの上、ご参加願ひます。





# 内分泌・代謝・糖尿病内科への診療科名変更



## 北海道医療センター 内分泌・代謝・糖尿病内科 山本 浩平

日頃から当院・当科診療へのご高配、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。私たち「糖尿病・脂質代謝内科」では、かねてより患者様の健康と幸福を追求するため、糖尿病や脂質代謝異常をお持ちの方のみならず、甲状腺疾患や副甲状腺疾患、脳下垂体疾患や副腎疾患といった、内分泌疾患をお持ちの方の診療にも従事し、最高水準の医療を提供するため、日々研鑽を重ねて参りました。

昨今では専門医制度が改定され、これまでは別々の資格であった内分泌代謝科専門医と、糖尿病内科専門医は、内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医に統合される事となりました。このような時代の背景を反映し、また現在の当科の診療実態にも即して、連携登録施設の皆様や、地域にお住まいの皆様に、当科の診療分野がより明確に、よりわかり易くなるよう、2024年4月より、当科は診療科名を「**内分泌・代謝・糖尿病内科**」へと変更させていただく事といたしました。

この変更により私たちが目指すのは、内分泌疾患を疑われる患者様に、より幅広く受診いただける環境を整備し、電解質異常や治療抵抗性の糖尿病・高血圧症などの裏に潜む、内分泌疾患を見逃すことなく、早期発見・早期治療につなげていくことです。糖尿病や脂質異常症診療に関しましては、これまでとかわらず継続させて頂く所存ですので、当科での診療が必要と考えられる患者様がいらっしゃいましたら、引き続きご紹介・ご相談いただけましたら幸いです。

ご質問やご不明点がございましたら、どうぞお気軽にお知らせください。

これからも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

**地域医療連携室受付時間（平日8：30～17：00）以外もFAXは24時間受電しております。翌診療日に予約票をお送りさせていただきます。**

### 独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター地域医療連携室スタッフ

北海道医療センター地域医療連携室は以下のメンバーを中心に運営しております。

院長：伊東 学、地域医療連携室長：新野 正明、地域医療連携室副室長（看護師長）：有馬 祐子

地域医療連携係：齋藤 啓輔、地域医療連携室副看護師長：鈴木 かおり、主任医療社会事業専門員：濱口 晃郎

TEL：011-611-8116（連携室直通）、011-611-8111（代表）、FAX：011-611-8112（連携室直通）

ホームページ：<http://Hokkaido-mc.hosp.go.jp/area/index.html>